

安全への提言



「ご安全に！」と「安全第一」

あら 新 井 充†

「ご安全に！」というのは、いまをさかのぼること25年前、私が最初に就職した会社の製造現場での挨拶の言葉です。朝、製造施設の門で、門衛さんに「おはようございます」という代わりに、「ご安全に！」、構内で人とすれ違うときも、「ご安全に！」、研修の座学でも、講師の先生に、「ご安全に！」、果ては、電話に出るときも、「もしもし」の代わりに「ご安全に！」と教え込まれたものです。曰く、全社共通の「挨拶の言葉」とのこと。今から考えてみると、安全を喚起するアイデアの一つとして、無くは無いは思いますが、当時は、「意味が分からない！」とっていましたし、電話での対応では、さすがに気恥ずかしく、最後まで使えるようになりませんでした。おまけに3か月後、本採用での配属先の研究所にて、全社共通のこの「挨拶の言葉」がほとんど使われていないという事実を知ってからは、この言葉は私の中で死語になっています。たしかに、日々、安全を喚起するための効果を期待しているのかもしれませんが、無理矢理作った、あまりにも不自然なものは普及・定着がなかなか難しいのではないのでしょうか。

「安全第一」、こちらのほうは、日本のほぼすべての工場、製造所で目にするのできる標語です。今流行りのWikipediaによれば、1906年に、当時のUSスチール社の社長が、同社の事故数を減らすために、それまでの、生産第一、品質第二、安全第三という経営方針を抜本的に改革、安全第一、品質第二、生産第三とし、事故数を激減させたそうです。この時に使われたスローガンが“Safety First”で、「安全第一」は、その訳語とのことです。20世紀初頭とはいえ、生産第一、品質第二、安全第三という経営方針がまかり通っていたことには、いささか驚かされますが、一方、それだけ一般常識化していたその経営方針を、完

全にひっくり返して、事故の激減を実現したことは、賞賛に値すると思います。また、だからこそ、現在においても「安全第一」という標語が、普遍的価値を持つ言葉として、受け継がれているのでしょう。

しかしながら、日本全国どこでも見られ、だれもがその意味を信じて疑わない「安全第一」というスローガンが、どれだけ日本の産業界に浸透しているのかを考えると、疑念を禁じ得ないのは、私だけではないはずで、安全を軽視した結果として事故を起こした会社の工場の門などに、このスローガンが燦然と輝いているのを見るたびに、ため息が出ます。ある意味、「形骸化」という言葉がこれほどフィットするスローガンもないのではないかと思えるほどです。

あまり普及できない、「ご安全に！」と十分に普及している「安全第一」、共通点としてはともに、今や必ずしも大きく安全に寄与しているとは思えないこと、そして、ともに「安全が大切」という内容を持っていながら、ただのお題目になってしまっていて、それがなぜ、どの程度大切なのかを思い起こす機能を失いつつあることでしょう。ある意味、「ご安全に！」は耳慣れないがゆえに、安全を喚起する掛け声であったものの、ただの挨拶になってしまえば、本来の“be safe”という意味は、霞んでしまいますし、「安全第一」も、安全を軽視して、第2、第3に据える経営方針が、見かけ上、存在しなくなった今となっては、安全第一の意味が見えなくなっているのだと思います。掛け声や標語は、それが当初どんなに良いものであっても、本来の意味を伴わずに伝承されてゆくと、陳腐化、形骸化する可能性があるのでしょう。

安全を実現するためには、たゆまぬ努力が必要です。その意味では、掛け声や標語にしても、それらを簡単に死語にしないための工夫が必要なのだと思います。

† 東京大学環境安全研究センター：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1